

鎌倉市の地域スポーツの振興策を考える ～深沢地域整備事業をコンセプトに～

神奈川大学 大竹ゼミ チーム S

○長沼 輝知 赤尾 優奈 金崎 実子 三枝 万梨恵 森川 知生 矢島 翼

1. 緒言

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に大規模スポーツ施設の建設や競技者の育成に力が注がれている。これらの傾向から、スポーツ全般が振興されているように感じられるが、総合型地域スポーツクラブや指導者育成など地域スポーツ振興のための基盤整備は十分とは言えない。2011年スポーツ基本法の本来の主旨は、いつでもどこでも誰もが身近な場所でスポーツ活動が行える「生涯スポーツ」の振興であることを忘れてはならない。その中で、鎌倉市では深沢地域で大規模スポーツ施設建設を含めた整備事業が計画され、スポーツの振興に力を入れようとしている。本事業を起爆剤として深沢地域を司令塔に市全体の新たな地域スポーツ発展のための仕組み作りが重要となる。

本研究は、深沢地域整備事業計画および鎌倉市スポーツ振興計画の分析と、地域スポーツ振興の実態に関するヒアリング調査の比較をもとに、実際に行われている事業が計画目標の達成に結びついているのか明らかにし、誰もが身近にスポーツが行える地域スポーツの仕組みを鎌倉市に政策提言する。

2. 深沢地域整備事業に関する調査

『深沢地域整備事業の修正土地利用計画』を読んだ上で詳細について鎌倉市拠点整備部深沢地域整備課へのヒアリング調査(2017年8月18日)を実施した。

本事業は湘南モノレール線湘南深沢駅前に存在する旧 JR 大船工場跡地を含めた約 31ha の空き地の再開発事業で、事業用地は JR と鎌倉市が大半の土地を所有している。現在は更地で、市有地は暫定的にスポーツクラブに貸し出しを行っているほか、多目的広場を設置してスポーツ活動の場としている。街づくりのコンセプトは「ウェルネス」であり、健康な心身の維持、発展を目指している。

深沢地域は鎌倉駅周辺、大船駅周辺に次ぐ鎌倉市の第3の拠点とすることを想定しており、行政・商業・防災・スポーツなどにおいて中心的な役割を担う。本事業区域内のゾーニングにおいてスポーツに関する区域は約6分の1を占め、現時点で観戦席を設けた総合体育館と屋内プールを建設予定。その他の施設については、市民からのサウンディング調査をもとに有識者会議にかけ2018年度を目処に決定する。

3. 地域スポーツ振興に関する調査

(1) 文献調査 地域スポーツ振興に関する資料

『今後の地域スポーツの推進方法に関する提言』(2015)

『地域スポーツ振興をめぐる動向』(2003)

これらによると、地域スポーツとは、多様化するライフスタイルや個人のニーズに対応した地域スポーツの環境を整備し、市民のスポーツへの参加、健康増進、地域コミュニティの形成や地域活性化を促すべきものである。また、地域スポーツを真に地域社会に根ざしたものにするためには、総合型地域スポーツクラブの設立が必要であり、スポーツという枠に留まらず、人づくり、地域づくりを進めていくべきとある。

(2)『鎌倉市スポーツ振興基本計画改訂版』の検討及びヒアリング調査(鎌倉市市民活動部スポーツ課 2017年8月25日、9月14日)を行った。

計画では「Enjoy “鎌倉” スポーツライフ」をスローガンに市民の運動実施率60%を目指す。あらゆる市民のスポーツを推進するために以下の5つの施策が挙げられている。それらの施策が実際に行われているかヒアリング調査を実施し比較した。

表1 施策の方向性と実際に行われている内容の比較

	施策の方向性	実際に行われている内容
1	身近な場所で参加できるスポーツ教室やイベントを開催しスポーツ参加のきっかけづくりを充実	プログラム内容・曜日・時間帯を選択してできるような教室やイベントの開催
2	障がい者のスポーツに対するニーズ把握に努め、参加しやすいイベントの開催に取り組む	ハードの面での施設のバリアフリー化と普及・啓発のためイベントや体験会を行っている
3	スポーツ施設においては開場時間の延長や学校施設開放の利用の拡大を図り、あらゆる市民のスポーツに取り組みやすい環境を整備する	拠点体育館や、ナイター設備を備えた小中学校2校による夜間利用拡大と学校施設開放は防犯上、登録された団体のみ利用となっている
4	いつ、どこで、なにができるかなどスポーツの開催情報を身近な場所で入手可能な情報手段を充実	スポーツ推進委員を設置、広報誌等の紙媒体とHP等の電子媒体で情報を提供している
5	いつでも、どこでも、だれもが、いつまでも参加できる総合型地域スポーツクラブの設立に向けて住民へのPRや研修等を開催	既存クラブは単一種目クラブ1団体のみ 現在新たなクラブの設置の予定はなし

(3)ヒアリング調査のまとめ・考察

スポーツ課へのヒアリング調査より、5つの計画に対して行っている活動が明確になった。しかし、それぞれの実施している活動によって目標が達成できるとは言い難い。以下に3つの問題点を挙げる。

ア. “スポーツに取り組みやすい環境の提供ができていない”

17万人という人口に対して教室やイベントの定員数の少なさ、限られた拠点体育館や公園での活動により、あらゆる市民に対しスポーツの機会が十分に与えられていない。学校開放においても登録された団体のみ利用だけではスポーツを実施する人々が固定化されてしまう。

イ. “スポーツ未実施者や積極的でない人々への情報提供が不十分”

広報誌等の紙媒体とホームページ・ツイッター等の電子媒体で情報提供を通じ、スポーツへの参加を促している。しかしスポーツ未実施者、積極的でない人々は自ら情報を取得しようとしなない為、教室やイベントの情報が伝わらない。

ウ. “総合型地域スポーツクラブの役割が果たせてない”

現在、総合型クラブと謳われ活動している団体では単一種目のみ行われている。本来の多種目、多世代にわたる活動がない点を見直していくべき。

5. 政策提言

現段階では施策を達成するために計画を実行しているものの、前項の問題が明らかになった。目標である運動実施率 60%を達成するためには十分な活動ができていないといえる。そこで私たちは目標達成するための仕組みづくりを鎌倉市に提言する。

従来の拠点のみでの教室やイベントを行っていても多くの市民は参加しづらい。そこで身近な地域でスポーツが行える場の提供が必要であると考え。この課題を解決するためにコンセプトとしてゾーニングという考え方をを用いる。

ゾーニングとは都市計画において各地域を用途別に区画していくことを表し、地域スポーツにおいては1989年の文部省保健体育審議会の答申において、小中学校区などをもとにして提示された考え方である。市民がいずれの地域においても徒歩圏内になりうる中学校区にあわせ9つにゾーニング



図1 ゾーニングの概念図

することで市民がスポーツをより身近で 手軽に行えるようにする。この考えが今回の政策提言の基盤となって、より具体的な活動

“鎌くらぶ”を設置する。“鎌くらぶ”とは、ゾーニングされた各地区に設置される総合型地域スポーツクラブのことである。運営するために必要な要素として人材、施設、プログラムの三つがあげられる。役所は鎌くらぶ推進本部を今後建設が予定される深沢体育館に設置し“鎌くらぶ”のサポートを行う。

表2 深沢本部と鎌くらぶの役割

鎌くらぶ推進本部	各地区鎌くらぶ
1.人材育成 ・クラブマネージャーの育成 ・実技指導者の育成	1.自主運営的な活動の推進
2.施設整備 ・活動拠点である学校整備と開放	2.会員確保と継続的な参加
3.ネットワーク ・各クラブの横のつながりをサポート	3.地域住民へのプログラム提供
4.全市的な交流大会の開催 ・クラブ会員の評価とサポート	4.中学校部活動との連携
5.情報の一元化	5.少年や高齢者のスポーツ参加
6.他団体との連携	6.その他

鎌くらぶ推進本部について

(1)人材育成については「クラブマネージャー」と「実技指導者」の両者を育成し、すでに整備されている自治体の講習会への参加促進や支援を行う。クラブマネージャーは現在各

地区に4人存在するスポーツ推進委員を候補者とし、今後のスポーツ振興に経験やノウハウを生かして活動する。実技指導者は体協を中心に制度を図っていく。

(2)施設整備について“鎌くらぶ”の活動は小・中学校を拠点とするため、学校の施設整備を進め、部活や地域のチームと共存していく調整を行う。使用時間のコントロールや制度を整える。学校側のメリットとして、住民との交流が増えることにより、子供と地域のつながりが強化され防犯につながる。また、クラブの指導者が部活動の指導を一緒におこなうことで教員の負担が軽減される。

(3)ネットワークの構築ではよりスムーズなクラブ運営を進めるため、定期的に各地区の代表が意見交換を行う集会(深サミット)、活動の成果の発表、評価をする場として、年に1回勝ち負けではなく交流を目的とした大会(カマリンピック)を開催する。

(4)情報提供の新たなシステムとしてイベントなどの情報を一元化し、一目で理解できるようなウェブサイトを作成する。

ア.ディレクトリ型検索機能をつけ、行いたいジャンルのスポーツのイベントや教室を一覧にして表示

イ.キーワード検索でスポーツ名、施設名などを入力し、一覧で表示

ウ.メールマガジンやLINE、twitterなどのSNSを利用した案内の発信

各クラブの運営について

(5)プログラムの提供は、市民が身近にスポーツをできる場としてニーズに合わせた活動を体協、NPOの指導者がスポーツ活動を企画する。その後、本部の支援により育成された指導者を中心に各クラブ内でプログラムを生みだせるようにしていく。

(6)会員制度は、定期的に活動に参加するクラブ会員と単発的に参加するサークル会員に分ける。これにより、今まであまり活動に参加してこなかった人も参加しやすい。

6. まとめ

“鎌くらぶ”を設置したことで、あらゆる市民に対して身近で手軽なスポーツ環境を提供するための積極的な政策として、行政が深沢地域に拠点を置き行う5つの支援・調整を提言した。これらの提言によって深沢地域を中心に鎌倉市全体の市民レベルにおけるスポーツ振興が促進されるだろう。

いずれは鎌倉市が全国の同規模市町村においてのモデル地区となり、地域レベルのスポーツ振興の発展に寄与することを目指す。

<参考文献>

鎌倉市(2014) 鎌倉市スポーツ振興基本計画改訂版

鎌倉市(2016) 深沢地域整備事業の修正土地利用計画

中村祐司(2002) スポーツ行政をめぐる政策ネットワークの研究 Waseda University
p. 159-161